

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	国語	科目	現代の国語	単位	2 単位
使用教材	第一学習社 高等学校 新編 現代の国語				
学習目標	① 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ② 生涯にわたる社会生活における他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 ③ 言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力向上を図る態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	①未知はいくらでもある ②ナマケモノになる ○書き方の基礎レッスン ○実用的な手紙文の書き方	評論文の基本的な読み方を学ぶ。			
		言語の持つ意味を理解する。			
		書き言葉についての基本的な事項を身に付ける。敬語表現を学ぶ。			
2 学期	③言語としてのピクトグラム ④十六歳のとき ⑤弱いロボットの誕生 ●話し方の工夫 ●待遇表現 ●論理的な表現 ○社会に対する意見文を書く	ピクトグラムが持つ言語としての機能を理解し、言語表現の多様性を理解する。			
		筆者の旅を追体験し、世界には様々な出会いがあることを理解する。			
		弱いロボットの開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。			
		話し言葉と書き言葉の特徴を理解し、場面に応じた言葉遣いを理解する。			
3 学期	⑥イースター島になぜ森がないのか ●スピーチで自分を伝える ●合意形成のための話し合いを行う	どのような文が意見文なのかを理解し、自分の体験から意見を引き出せるようになる。			
		イースター島の歴史を理解し、筆者が提示する人類と生態系の在り方について考察する。			
		自分のスピーチを大勢の聞き手にわかりやすく伝える方法を理解する。			
		話し合いの進め方のルールを理解し、実践できるようにする。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。			
II	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすことができる。他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ力への認識を深めることができる。生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させることができる。我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	1. 定期テスト及び課題テスト ①各定期テスト(年4回) ②基礎学力テスト ③夏課題テスト 2. 発表 3. 授業時のプリント		1. 定期テスト及び課題テスト ①各定期テスト(年4回) ②基礎学力テスト ③夏課題テスト 2. 発表 3. 授業時のプリント 4. レポートや作文の提出		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必修	必修
教科	地歴・公民	科目	地理総合	単位	2 単位
使用教材	東京書籍「地理総合」 帝国書院「標準高等地図」 東京書籍「地理総合ワークノート」				
学習目標	① 諸事象について多様性や諸課題への取組などを理解し、地図や地理情報システムなどを用いて調べまとめる技能を身に付ける。 ② 事象の意味や意義、特色や相互の関連について、地理的な視点に着目し、概念などを活用して考察、構想、説明、議論する力を養う。 ③ 諸課題に主体的に取り組む態度を養い、多面的・多角的な考察・理解から国民としての自覚や世界の多様性尊重を深める。				
単元と内容					
1 学期	第1編地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界 第2章 資料から読み取る現代世界	地図の役割や有用性を理解するとともに、位置や分布などに			
		着目して、地図やGISの活用方法について考える。			
		また、国際社会における国家の役割を理解し、地域間の			
		さまざまな相互関係について考察する。			
2 学期	第2編国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 第2章 さまざまな地球課題と国際協力	場所や人間と自然の関わりなどに着目して、世界各地の生活			
		文化の特徴を理解し、その多様性や変容の要因について考える。			
		また、他地域との結び付きや地域の特徴などに着目しながら、			
		持続可能な社会をつくるために、今後必要となる取り組みや国際			
3 学期	第3編持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 第2章 生活圏の調査と地域の展望	協力について考察する。			
		人間と自然の関わりや地域の特徴に着目して、地域性を踏まえた			
		自然災害への備えや対応の重要性について考える。また、他地域			
		との結び付き、地域の成り立ちや変容などに着目して、生活圏が			
抱える地理的な課題を探究し、社会参画の在り方について考える。					
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球課題への取組などを理解して、地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を適切かつ効果的に調べることができる。			
II	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想したり・表現することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	現代社会と地理に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとしている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	1 定期テストおよび小テストの点数 2 授業プリントなどの取り組み状況		1 定期テストおよび小テストの点数 2 授業プリントなどへの取り組み状況 3 発表活動 (まとめる・伝える)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	数学	科目	数学 I	単位	2 単位
使用教材	教科書:高校数学 I (実教出版) 副教材:スタディノート数学 I (実教出版)、サブノート数学 I (実教出版)				
学習目標	①数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ②命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 ③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
単元と内容					
1 学 期	(学びの基礎診断)				
	ウォームアップ		計算練習		
	(課題テスト)		整式の加法・減法・乗法、因数分解		
	1章 数と式		実数		
		(期末テスト)			
2 学 期	(課題テスト)		中学校までの復習		
	2章 2次関数		1次方程式と1次不等式		
	(中間テスト)		1次関数と2次関数		
			2次関数の最大・最小、2次方程式、2次不等式		
	(期末テスト)				
3 学 期	3章 三角比		三角比の基本		
			三角比の応用		
	(学年末テスト)		課題学習、自主トレーニング		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業の取組(ノート、プリント) 小テスト、定期テスト(計算)		授業の取組(発表) 定期テスト(記述)		予定
					70時間
					実施
育てる能力		③忍耐力 ④主体性 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1年	学科	全学科	必修	選択必修修
教科	理科	科目	化学基礎	単位	2単位
使用教材	教科書:高校化学基礎visual 実教出版 副教材:高校化学基礎カラーノート改訂版 実教出版				
学習目標	① 理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うための基本技術・知識を身に付ける。 ② 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて物質とその変化を探究する力を養う。 ③ 物質とその変化への興味・関心を高め、科学的に探究する態度や進んで学習に取り組む姿勢を育む。				
単元と内容					
1 学期	序章 化学と人間生活 1章 物質の構成 1節 物質の探究 2節 物質の構成粒子 2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 2節 共有結合 3節 金属結合		・原子の構造と性質を理解するとともに、多種多様な元素の性質と関連付けながら学習する。		
			・各化学結合の成り立ちを原子の電子配置と関連付けて考えると		
			ともに、各結合でできた物質の性質を理解する。		
			・生活や社会を支える身近な物質に着目し、科学的に探究し、表現する。		
2 学期	3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式 2節 酸と塩基		・粒子の数に基づく量の表し方である物質量の概念を導入し、粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。		
			・化学変化では一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断する。		
			・実験などを通して酸と塩基の性質および中和反応に関与する物質の量的関係について理解し、科学的に表現する。		
3 学期	3章 物質の変化 3節 酸化還元反応 終章 化学が拓く世界		・酸化と還元が電子の授受によることを理解する。		
			・酸化還元反応の日常生活や社会との関わりについて理解する。		
			・化学基礎で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解する。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	物質とその変化に関して知識や身近な物質の探究に必要な基本操作を身に付けている。科学的に探究する方法を理解している。			
II	思考・判断・表現	身近な物質を探究する過程を通して、事象を科学的に考察している。また、導き出した考え方を的確に表現している。物質や化学反応における規則性や関係性を見いだして表現できる。観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	身近な物質や化学反応について意欲的に理解しようとし、科学的な見方や考え方ができる。物質の探究に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	○定期テスト(年4回) ○授業プリント・ノート ○問題演習 ○実験操作 ○レポート		○定期テスト(年4回) ○問題演習 ○実験 ○発表 ○レポート		予定
					70時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	保健体育	科目	体育	単位	3 単位
使用教材	現代高等保健体育 大修館書店				
学習目標	① 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ② 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③ 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
単元と内容					
1 学 期	体育理論 体づくり運動 陸上競技 器械運動 ダンス	・スポーツの歴史や意義、価値、影響について学ぶ。			
		・体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動と自分の体力を高める運動を行う。			
		・集団的技能や個人的技能を発揮し、作戦を立てたり工夫をする。			
2 学 期	バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球 柔道	・ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、作戦を立てたり工夫をする。			
		・集団的技能や個人的技能を発揮し、作戦を立てたり工夫をする。			
3 学 期	スキー	・スキーターン等の技能を修得し、斜面や雪の状態に適応できる。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能を身に付け、ルールなどが理解できる。			
Ⅱ	思考・判断・表現	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断し、他者に伝えている。			
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	学習に主体的に取り組もうとしている。健康・安全を確保したりしている。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	テスト(実技・ペーパー) 授業時の観察		提出物 授業時の発言		授業時の観察
					提出物
					予定
					105 時間
				実施	
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	保健体育	科目	保健	単位	1 単位
使用教材	現代高等保健体育(大修館書店)				
学習目標	① 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ② 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ③ 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	生涯を通じる健康 安全な社会生活	・思春期と健康について			
		・妊娠・出産、人工妊娠中絶について			
2 学期	現代社会と健康	・精神疾患について			
		・感染症について			
		・健康における環境の重要性について			
3 学期	安全な社会生活	・応急手当について			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解し、技能を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて表現している。			
III	主体的に学習に取り組む態度	学習に主体的に取り組もうとしている。健康について自分事としてとらえ行動することができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業時の発言 提出物		授業時の発言 提出物		予定
					35 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必選	選択必履修
教科	芸術	科目	音楽 I	単位	2 単位
使用教材	教育芸術社 MOUSA I				
学習目標	① 音楽の多様性を理解し、創意工夫を生かした表現に必要な技術を身につけようとする。 ② 自己のイメージを持って表現し、評価しながら音楽の美しさを自ら味わことができるようにする。 ③ 主体的・協働的に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。				
単元と内容					
1 学期	歌唱(実技演奏テスト) 音楽理論(小テスト) ギターの基礎(実技演奏テスト)	校歌や教科書教材を通して、歌唱の基礎的な奏法を身につける。			
		音楽を構成する要素を理解する。			
		ギター奏法の基礎的な技術を身につける。			
2 学期	器楽演奏(発表) 合唱(発表) 鑑賞(小テスト)	ギターの発展奏法やピアノの基礎的な技術を身につける。			
		合唱活動を通して、主体性や協働性を身につける。			
		鑑賞活動を通して、クラシック音楽の魅力を味わう。			
3 学期	演奏研究(発表)	生徒自身で計画を立ててアンサンブル等を行い、演奏における客観			
		性と多様性について理解を深め、理解したことを生かして演奏をする。			
		他者の演奏について客観的な評価をすることができる。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解している。			
II	思考・判断・表現	創意工夫を生かした音楽表現をするために、他者の意見も参考にしながら自らの考えを伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現および鑑賞の学習活動に取り組んでいる。			
評価方法	観点 I		観点 II		年間時数
	授業の取り組み 実技演奏テスト 小テスト		授業の取り組み 実技演奏発表 小テスト		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		②自己肯定感 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必修	選択必修
教科	芸術	科目	美術 I	単位	2 単位
使用教材	高校生の美術 I 日本文教出版				
学習目標	① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 ② 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ③ 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	オリエンテーション 身のまわりのもののスケッチ 深山和紙を使った絵うちわ制作	植物の、種類ごとの特徴や構造、成長過程が影響してその形が成り立っていることを理解し、観察結果を素直に写しとる。 複数のモチーフを描くことや詳細に描き込むことに挑戦する。あるいは、くりかえし描いて改善を試みる。 用途を満たすだけでなく美しさを同時に求める日本の伝統的な美的感覚を理解する。 型模様やスケッチした草花などを構成し、和紙に転写、彩色し、絵うちわに仕立てる。 平面絵画と異なり表裏の二面があるという構造、和紙の透け具合などを利用した、絵うちわでこそその演出づくりに挑戦する。			
		枠の角材を用いてフレーム構造の立方体をつくる練習工作を通じて、工具やボンドの扱い方や木材の性質を理解し、立体物を創作するための計画の立て方を学ぶ。 ろうそくの交換と防燃性に配慮した構造にすることを絶対条件とし、キャンドルオブジェを制作する。自由度が高いなかで構造・素材・加工方法を構想し、自分なりの理想を具現化し、独創性を養う。 完成後の、ろうそくを灯した時の光と影のあり方を想像し、その演出を意識してオブジェの形態や素材選びを構想する。 「キャンドルナイト」という世界的な運動を知り、社会性・協調性を養う。 身のまわりのBI(ブランドアイデンティティ)・CI(コーポレートアイデンティティ)を観察し、デザインの意図を考える。 架空のブランドを設定する。特徴、他との差別化を図ったブランドコンセプトを構想する。 身近な商品の名称を観察し、耳と印象に残り、興味を持たれる名称を理解する。 ブランドコンセプトにふさわしく、音感・音数を意識したブランド名を構想する。			
		自分の氏名のレタリング作業を通じ、整って見える文字のあり方を学ぶ。 4色以内のアクリルガッシュによる平塗りで、ブランド名を含むことをデザイン条件とするなかで、ブランドの特色を表現する図案を構想する。 アクリルガッシュで丁寧な彩色を行い、絵の具を正しく扱い、完成度を高める。			
2 学期	キャンドルオブジェ制作 (練習工作)立方体づくり オブジェ制作 ブランディングデザイン				
3 学期	ブランディングデザイン				
評価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	対象に潜む魅力の構造、受け継がれてきた美意識、材料道具を扱う技術、主題の意図などを正しく理解し、ふさわしい表現方法を創造できるようにする。			
II	思考・判断・表現	対象に潜む魅力の構造、受け継がれてきた美意識、材料道具を扱う技術、主題の意図などを踏まえ、自分ならではの着眼点を持ち、表現の構想をふくらませ、創意工夫することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	与えられた主題を表面的に理解するにとどまることなく、主体的に深く考察し、改善の余地を見出し、くりかえし改善を試みることを通じて、心豊かな生活や社会を創造していく姿勢を養う。			
評価方法	観点 I		観点 II		年間時数
	授業態度 作品提出 プリント課題		作品提出 相談時の態度		作品提出
					予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		②自己肯定感 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	英語	科目	英語コミュニケーション I	単位	3 単位
使用教材	COMET English Communication I 数研出版				
学習目標	① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	基礎学力テスト	単 語 帳 も 授 業 内 で 使 用	中学の学び直し(be動詞・一般動詞・否定文・疑問文)		
	中学の学び直し(自作プリント使用) Lesson 1 What Did You Do in Japan? Lesson 2 When Do You Feel Happy? Lesson 3 Onigiri Goes Overseas 期末テスト		過去形 思い出に残っている経験を英語で述べる		
			進行形 自分の好きなことについて英語で述べる		
			助動詞 日本の文化を英語で紹介する		
2 学期	Reading 2 Bailey		日本初のファシリテッドッグ(ペイリー)についてスライドを作って発表する		
	課題テスト Lesson 5 Morita Yuko 中間テスト Lesson 7 High School Aquarium 期末テスト				
			動名詞 興味のある職業について英語で述べる		
			現在完了形 自分たちの学校を英語で紹介する		
3 学期	Lesson 9 Food Waste				
	学年末テスト		比較 食品廃棄を減らす取り組みについて英語で述べる		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	音声・句読法・単語や慣用表現・文構造や文法事項が身に付いている。 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付いている。			
II	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について文章を読み取り、概要や要点を把握することができる。伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして自分自身の考えなどを伝え合うことができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	英語や国内外の文化の違いに興味を持ち、その習得と理解に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする実践的な態度が身に付いている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 実技テスト (音読・暗唱など) 授業プリント		定期テスト 実技テスト(発表など)		予定
					105 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		②自己肯定感 ④主体性 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑩知識技能			

令和8年(2026年)度年間授業計画表						
学年	1 年	学科	全学科	必選	必履修	
教科	家庭	科目	家庭総合	単位	2 単位	
使用教材	新 家庭総合 実教出版					
学習目標	① 生活を主体的に営むために必要な科学的な理解及び技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 ② 生活の中の課題を見出し、解決策を構想し、科学的な根拠に基づいて課題を解決する力を養う。 ③ 様々な人々と協働し地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。					
単元と内容						
1 学期	◇自分らしい人生と家族	・ライフステージの特徴と課題について理解し、人生を展望することができる。				
		・青年期の自立の特徴と共に生きる社会について理解できる。				
		・成人に向けて自立を高める具体的な手段を見つけることができる。				
		・家族の意義を理解し、家庭内で役割を担うことができる。				
2 学期	◇高齢者との関わりと福祉 ◇衣生活の科学と文化	・高齢期の心身の変化を理解し、高齢者と交流ができる。				
		・高齢期の発達段階を理解し、ロールモデルを見つけることができる。				
		・衣服の機能と素材を理解し、快適な衣生活に向けた行動ができる。				
		・衣服の適切な購入と管理及び持続可能な衣生活を考察できる。				
		・衣生活の自立に必要な基本的技能を身に付ける。				
3 学期	◇住生活の科学と文化 ◇経済的に自立する	・健康と住まいの関連性を理解して、日常生活に生かすことができる。				
		・災害時の正確な情報を入手でき、防災・減災に取り組むことができる。				
		・経済的な自立のため家計の仕組みを理解し、家計の予算化ができる。				
評 価						
評価の観点		評価の趣旨				
I	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付ける。				
II	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。				
III	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。				
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		観点Ⅲ	年間時数
	ペーパーテスト 実技テスト(基礎縫い) 授業時のプリント 被服製作作品		授業時のプリント ペーパーテスト 発表		振り返りシート 授業時のプリント 授業の取組(発言・態度)	予定
						70 時間
						実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献				

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	食料生産経営科	必選	原則履修
教科	農業	科目	農業と環境	単位	3 単位
使用教材	農業と環境 実教出版				
学習目標	① 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ② 農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第1章農業と環境を学ぶ 第4章栽培・飼育と環境のプロジェクト(イネ) 第3章栽培と飼育の基礎	・農業の学び方に関心を持ち、実践する意欲と態度を身につける。			
		・プロジェクト学習法に関する基礎的な知識を身につける。			
		・学校農業クラブ活動の目標や組織、活動の内容を理解する。			
		・イネの栽培をテーマにプロジェクト活動に取り組み、発表する。			
		・家畜の生育や管理について基礎的な知識や技術を身につける。			
2 学期	第2章 私たちの暮らしと農業・農村	・人間と他の生物との関係、農業の社会的な役割と環境・暮らしとの関係について理解する。			
		・食と農業、環境と農業、生活に関する資料や情報を収集し、適切に選択して活用する力を身につける。			
3 学期	第2章 私たちの暮らしと農業・農村	・食と農業、環境と農業、生活に関する基礎的な知識を身につけ、農業の社会的な役割と環境・暮らしとの関係について理解する。			
		・食と農業の動向と課題に関する基礎的な知識を身につけ、農業の社会的な役割・環境・暮らしとの関係を理解する。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業と環境について関係性や全体のまとまりについて理解し、関連する技術を身につけている。			
II	思考・判断・表現	課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として道筋を立てて創造的に解決する力を身につけている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	基礎的な知識と技術が活用できるよう自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 実習記録ノート 観察(授業態度・服装)		定期テスト 実習記録ノート プロジェクト活動の発表と報告書 観察(授業態度・服装)		予定
					105 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	農業資源活用科	必選	原則履修
教科	農業	科目	農業と環境	単位	3 単位
使用教材	農業と環境 実教出版				
学習目標	① 農業の見方・考え方を働かせ、農業学習の各分野で活用する基礎的な資質・能力を育成する。 ② 自然環境の中で暮らす一員としての意識を育て、農業と環境の結び付きについて考えられるようになる。 ③ 体験的かつ実践的な学習活動を通して、科学性・社会性・指導性を高める				
単元と内容					
1 学 期	農業と環境を学ぶ 栽培・飼育と環境のプロジェクト (トマトの栽培と利用・花壇用草花の栽培と利用)	農業学習の特徴			
		プロジェクト学習とその流れ			
		学校農業クラブについて			
		トマトの栽培管理・生育調査			
		花壇用苗の栽培管理と利用			
2 学 期	栽培と飼育の基礎 栽培・飼育と環境のプロジェクト (トマトの栽培と利用・花壇用草花の栽培と利用)	作物の特性と栽培の仕組み			
		作物を取り巻く環境とその管理			
		プロジェクトの課題設定と素材			
		栽培と飼育に関するプロジェクトの実際			
		トマトの栽培と利用			
3 学 期	私たちの暮らしと農業農村 地域資源の調査	農業と食料供給			
		農畜農村の役割			
		地域資源の調べ方			
		地域資源を活用したプロジェクトの計画・演習			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。			
II	思考・判断・表現	農業と環境に関する課題を発見し、学科の特色を踏まえながら、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。			
III	主体的に学習に取り組む態度	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用・応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が見られる。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 実習記録シート 観察(授業態度・服装)		定期テスト 実習記録シート プロジェクト活動の発表と報告書 観察(授業態度・服装)		予定
					105 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必選	共通科目
教科	農業	科目	総合実習	単位	2単位(時間外1単位)
使用教材	各教科の教科書				
学習目標	① 農業の各分野について体系的・系統的に理解し、相互に関連付けられた技術を身につける。 ② 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③ 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	畜産	畜産の管理実習、飼料学習			
	果樹	花卉の仕組み、開花観察、摘果実習、植物ホルモンとジベ処理、果樹管理			
	草花	種まき、水やり、鉢上げの実施			
	農業クラブ	農業クラブ説明会、意見発表会、校内農業鑑定競技会の実施と参加			
	宿泊実習・長期休業中実習等	家畜の管理、長期長期休業、放課後実習の実施			
2 学期	畜産	飼料の学習、乳牛飼育管理、繁殖牛の学習、鶏の学習、宿泊実習			
	果樹	ブドウ収穫・販売、着色管理、収穫・販売実習、肥培管理・凍害対策の実施			
	草花	シクラメンの管理			
	農業クラブ	プロジェクト発表会の実施と参加			
3 学期	畜産	畜産管理のまとめ			
	果樹	様々な樹種の剪定の基礎の学習、剪定の実践、まとめ学習			
	草花	シクラメン苗の観察、販売実施			
	農業クラブ	意見発表会クラス予選の実施と参加			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業の各分野について体系的・系統的に理解し、相互に関連付けられた技術を身につけている。			
II	思考・判断・表現	農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力や態度が身についている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。			
評価 方法	観点 I	観点 II	観点 III	年間時数	
	定期テスト 授業時のプリント 実技テスト 農業鑑定競技会	定期テスト 提出物 意見発表会 プロジェクト発表会	授業の取組(態度、出席状況) 定期テストの復習	予定	
				70時間 (時間外35時間)	
				実施	
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技術 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	農業	科目	農業と情報	単位	2 単位
使用教材	農業と情報 実教出版				
学習目標	①農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第1章 私たちの生活と農業の情報化 第2章 社会を支えるコンピューター 第3章 コミュニケーションと情報デザイン ○文書の作成と表現(文書作成ソフトの活用) (期末テスト)	・情報化社会における、メディアリテラシーや情報モラルなどを理解する。			
		・農業における、情報の役割やデータ収集の大切さについて理解する。			
		・コンピューターのしくみや情報セキュリティ管理などを理解する。			
		・情報を活用するソフトウェアについて理解する。			
		・文書作成ソフトの基本的な利用方法を理解する。			
2 学期	○文書の作成と表現(文書作成ソフトの活用) ○データの集計と視覚化(表計算ソフトの活用) (中間テスト) ○データベースの利用と画像処理・動画編集 ○プレゼンテーションソフトの活用 (期末テスト)	・文書作成ソフトを活用するための十分な技能を身につける。			
		・表計算ソフトを活用するための十分な技能を身につける。			
		・データ処理やグラフ作成の技術をプロジェクト学習で活用できるようにする			
		・データベースや画像等をプレゼンテーションに取り入れ、プロジェクト学習の発表をできるようにする。			
3 学期	○情報発信 第4章 スマート農業への展望 ○プログラムの設計 第5章 農業情報の分析と活用 (学年末テスト)	・基本的なHTMLのタグを理解する。			
		・地域のスマート農業の実際について知り、理解する。			
		・プログラム設計について理解する			
		・農業経営における情報処理システムの利用場面と効果を考える。(経営科)			
		・統計や市場などの情報外部情報の重要性和役割を理解する。(活用科)			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的・系統的に理解している。			
II	思考・判断・表現	農業情報の活用について、職業人に求められる倫理観を持って思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。			
III	主体的に学習に取り組む態度	農業情報を活用した事例に関心を持ちながら、農業振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 授業の取り組み (授業のデータ提出、態度)		定期テスト 授業の取り組み (データ処理のプロセス)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	1 年	学科	全学科	必選	共通科目
教科	農業	科目	植物バイオテクノロジー	単位	2 単位
使用教材	植物バイオテクノロジー 実教出版				
学習目標	①植物バイオテクノロジーについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②植物バイオテクノロジーの活用に関する課題を発見し合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③植物バイオテクノロジーについて主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	1. 植物バイオテクノロジーの意義と役割 2. バイオテクノロジーとは何か 3. バイオテクノロジーの基礎とプロジェクト学習(期末テスト)	・バイオテクノロジーは農林業、食品産業等で利用されていることを理解する。			
		・農業生物の繁殖、遺伝等の機能を生活に役立てていることを理解する。			
		・植物バイオテクノロジーとプロジェクト学習について知識と技術を身に付ける。			
2 学期	1. 植物組織培養の基礎 2. 組織培養の施設・機器・器具 3. 組織培養の実際 4. 培地の作成 (中間テスト)(期末テスト)	・植物の組織・細胞・遺伝子等の作用を理解する。			
		・実験器具の使い方を身に付ける。			
		・基本的な無菌操作を身に付ける。			
		・組織培養の培地作成の知識と技能を身に付ける。			
		・地域資源植物(ダリア等)の茎頂培養について理解する。			
3 学期	1. 細胞融合と遺伝子組換え 2. バイオマスの利用 3. 植物バイオテクノロジーの実践 (学年末テスト)	・植物の遺伝情報の基本的内容と実用化について理解する。			
		・農産や林産廃棄物等の利用と課題について考察する。			
		・地域資源植物(ダリア、イネ、野菜等)の培養について取り組む。			
		・地域連携活動等を通して活用方法と課題解決に主体的に取り組む。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	植物組織培養などの植物バイオテクノロジーに関するプロジェクト学習を通して、知識と技術を、体系的・系統的に理解し身に付けている。			
II	思考・判断・表現	植物バイオテクノロジーの果たす意義と役割を理解し、科学的な根拠に基づいて創造的に課題を解決する力を養っている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	植物バイオテクノロジーの知識と技術の習得に向けて、主体的かつ協働的に取り組んでいる。			
評価方法	観点 I		観点 II		年間時数
	定期テスト 授業(実験)の取り組み (レポート提出、態度)		定期テスト 授業(実験)の取り組み (レポート提出、態度)		授業(実験)の取り組み (態度、発言、教え合い) レポート提出状況 出席状況
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			